



海にいるカニは何を食べているの

岩場にいるカニ、砂浜にいるカニ

イソガニ、イワガニ、アカテガニは、岩場をすみかにはしています。海草や魚や、貝の死がいなどを食べます。

マンジュウガニ、コメツキガニ、シオマネキなどは、潮の引いた砂浜で見られます。これらの種類は、どろの中のくさりかけの木の葉、動植物の死がい、プランクトンなどを食べています。どちらにすんでいるものも、海のごみを食べて、きれいにしてくれる掃除屋さんといっていいでしょう。

ピンノ類とカラッパ

アサリやハマグリの中から、小さなカニが見つかることがあります。ピンノという種類のカニです。アサリやハマグリのえさであるプランクトンのおこぼれを食べています。また、おもしろいえさの取り方をするのは、カラッパです。このカニは、巻き貝をはさみで割って食べます。

いろいろなカニ

カニは、すみ場所が広く、淡水から、海水と真水がまじりあう河口、潮の満ち引きのある潮間帯、大陸だな、水深4000メートルの深海まですんでいます。世界では約5000種、日本には約1000種が知られています。

漁業として、とられているカニのうち、その半分は、種類がはっきりしていないそうです。世界の海には、食べ物やくらしぶりなど、何もわかっていないカニがたくさんいます。

歩く、およぐ、もぐる

ふつうのカニは、歩くのに適した足がありますが、アサヒガニ類では、砂にもぐるのに便利な、平たい足をもっています。また、ワタリガニ類は、最後の足がおよぐのに適した平たい足になっています。（監修・杉浦 宏）

